

月刊

GPP



Vol.57

令和2年7月号

株式会社
グロースパートナーズ

セルドロン の知名度をあげよう

7月に入って豪雨災害が各地で頻発している。被災された方々に心よりお祈り申し上げます。

このところ毎年「〇△年に1度の豪雨」と良く耳にするが、そのうちそんな表現も聞かなくなるのではないか。

水害が発生すると必ずセルドロンにお声がけ頂けるようになったのは事実である。ただ、災害が発生した後では納品が極めて困難であり、ともすれば「そんな時間がかかるなら要らない」「もう遅い」等々のお叱りを受ける。

解決策としては、有事に備えて地域で備蓄して頂くことだが、置き場所を含めた“予算”の話になって、なかなか前に進めていない。

セルドロンの知名度をもっと上げていくしかないのである。

一方、NETIS登録された残コン対策品としてのセルドロンは、着実に浸透しつつある。大手ゼネコンの竹中工務店様が、先月と今月の2回に渡って関係者を集めてのデモをして頂けることとなった。

我々として大変ありがたいのは、大手企業は必ず単独ではなく、納品業者にもお声掛けして頂けるので、広がるスピードが早い。

また、別のゼネコンからのご要望で沖縄・宮古島にも納品させて頂いた。

やはり、NETISの力は絶大である。

また、来月21日には東京大学・野口貴文教授が「SDGsにおける生コンクリートのリサイクルについて」と題して、リサイクル資材から製造した生コンや、現場で余った生コンのリサイクルを活性化させる団体が立ち上がることとなった。セルドロンもNETIS登録品として紹介されることとなったが、何より“残コン”にスポットライトが当たることは画期的なことである。

処理した残コンをリサイクル品としてJIS等に規格化すること、つまり再利用を施すことで業界全体に広く浸透さえようという、ソリューション追及型であることが素晴らしい。

我々としてもその主旨に沿うべく積極的に参加させて頂くこととした。

その他、モノタロウに掲載され、汚泥・浚渫処理でもより具体的なお話を頂くようになってきた。セルドロンは着実に知名度を上げていることが実感出来る、今日この頃である。

藤井 成厚

発行：株式会社グロースパートナーズ

セルドロン問合せ一例

■「緊急浚渫推進事業」に伴う問い合わせが増加

総務省は、令和元年台風第19号による河川氾濫等の大規模な浸水被害等が相次ぎ、地方自治体が単独事業として緊急的に河川等の浚渫を実施できるように

「緊急浚渫推進事業」(令和2～6年度までの5年間4900億円)を新設しており、令和2年度の事業費は900億円を確保されております。

「緊急浚渫推進事業」により、各自治体などが予算の確保に動いているためと考えられます。また、浚渫事業の新しい技術としてセルドロンが注目されております。

浚渫土を環境に影響を与えることなく除去し、有効活用できるかを検討されます。

河川の浚渫土にセルドロンを混合して、場内で再利用した実績もあります。

ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

東京都中央区月島 佃公園整備工事における浚渫土の改良



■残コン用途による問い合わせ

NETISに掲載されてから、多くの現場から問い合わせをいただいております。

全ての現場が対象になるわけではないですが、様々な理由から問い合わせをいただきます。狭いスペースで残コン処理、モルタル注入工事、アスベスト処理、塗料の処分、洗い水の処理、現場の規制など。

まずは、セルドロンをお試しく下さい。

NEW!!

ホームページをリニューアルしました

セルドロンの試験施工などの動画をアップしております。

「株式会社グロースパートナーズ」で検索ください。

ぜひご確認宜しくお願い致します。